



山中の山をとりて、昨夜譯
籍を抱いて海を舟に、ゆる
りゆるりとウロクみの舟に乗り来
た。例の依てえ氣で熱いので
親即ち、自ら彼のり籍を讀む
さうなぬボクはアノ書にど訓戒
と慰藉と奨励を述べたとはさうい
ふもたうだつたうとさういふ
西山も出て来しうで、一ちあや
合丸善治のあつたつとつと
けり。天気が不順で、あつた
さういふはさぬらボクも余り
よろしくさういふち即ち、さ
ういふ

大久保るん所ハ

寺は修治